



保護者学習会



平成 23 年 2 月 24 日 (木) に、「**小学校で学ぶ聴覚障害児**」と題して、昨年、本校を定年退職された曾我部恵子先生に話をさせていただきました。曾我部先生の長年に渡る聾学校での実践や、現在携わっておられる特別支援教育巡回相談員としての御経験に基づいてお話をさせていただきました。

(通常の学級で学ぶ聴覚障害児が困っていること)

- 聞こえないことに関して
 - ・ 少人数では分かることも、クラス全体の発表になると分からない。
 - ・ 集中していると校内放送が聞こえない。
 - ・ 運動場など広い場所では聞き取りにくい。
 - ・ 楽器の演奏の際、聞き取りにくい音がある。
- うるささに関して
 - ・ にぎやかな所で、うるさく感じる。
 - ・ 家に帰ってから耳が痛くなる。
- 言葉に関して
 - ・ 言語力の問題 (小学校では日常的事が話せるという前提で学習が進む。)
 - ・ 先生の使う言葉が理解しにくく、学習に困る。(分からないまますぎていく。)
 - ・ 友達が使う言葉が分からない。(友達関係の築きにくさ)
- 発音に関して
 - ・ 発音が不明りょうで友達に分かってもらえない。

(小学校で気をつけること)

- **元気に学校に行く**
 - ・ 身支度、着替えを自分でする。(補聴器の管理も)
 - ・ 宿題は帰ってすぐにする。(時間を決める。)
 - ・ 前の日に持っていくものの準備をして、保護者が確認する。
 - ・ 体力をつける。(ランドセルを背負って、歩いて行けるだけの体力を身につける。入学までに何度か歩いてみる。)

● **小学校での学習**

小学校は話し言葉が出来上がった段階で始まる。生活言語(聞く・話す)ををベースに「読む・書く」をどんどん進めていく。「聞く・話す」がしっかりできていないと、「読む・書く」の授業が成立しにくい。言語の力があるに越したことはないが、今の力を十分に使いながら、小学校での学習に結び付けていく。小学校では**言葉を言葉で説明する力**が求められる。(例:地震って何?)生活言語を学習言語に発展させていく。今の力を十分に使いながら小学校の学習に結び付けていきましょう。

● 言葉の力をのばすために

- ・ 複合語「あなが あいていた (あく+いる)」「ふきはじめました (ふく+はじめる)」「するどくとがった (するどい+とがる)」
- ・ 動詞、形容詞、形容動詞の活用 (歌う、歌わない、歌った、歌えば)
- ・ 多義語 (ピアノをひく、風邪をひく、椅子をひく、数をひく)
- ・ 副詞 (まだまだ、なかなか、とうとう、こっそり)

以上のような言葉は小学校の1年生の教科書から出てくる。しかし、聴覚障害の児童にとっては理解が難しい言葉である。小学校では、聞いて理解できる子どもと一緒に学習が進むことを意識して、言葉を広げるような話し掛け、関わりを心掛け、例に挙げた言葉を生活や絵日記の中で、意図的に使っていくことが大切である。入学までに、**語いを増やすこと、使える言葉を多くすること、複雑な文の構造の理解**（「お父さんが買った本を私と弟が読みました。」等）を意識して関わってほしい。

● 連携を密に

担任の先生、小学校・聾学校のコーディネーターの先生と連携をとり、何でも話せる信頼関係を築く。聴覚障害の情報を先生に伝え、聴覚障害への理解を深めてもらうように心掛ける。子どもが「どうして自分は耳が聞こえないの」と尋ねてきたときに、親や周りがどのように支援していくのかを話し合っておくことが大切である。

● 子どもへの目配り

小学校では子どもが頑張らなければならないことが多くなるが、子どもの頑張る思いを作るのは家庭である。特に低学年の間は子どもから目を離さずに、子どもの気持ちに敏感でありたい。

